

研究力紹介動画制作と海外展開について

東京農工大学 先端産学連携研究推進センター
統括リサーチ・アドミニストレーター 藤網 義行
(連絡先: fujituna@cc.tuat.ac.jp)



1. 東京農工大学のビジョン

東京農工大学の研究大学としての取組み

(1) 東京農工大学の基本理念
MORE SENSE Mission Oriented Research and Education giving Synergy in Endeavors toward a Sustainable Earth
「指名指向型教育研究 - 美しい地球持続のための全学的努力」
21世紀の人類が直面している課題の解決に真摯に取り組む。
第2期中期目標: 研究大学としての地位の確立

- ・教員に外部資金の獲得、産学連携を奨励
- ・産学連携知財センター、事務組織による外部資金獲得への支援

(2) これまでの実績
・外部資金…毎年大学の収入約100億円に対し、**40億円**
・産学連携共同研究…教員一人あたりの実績は常に**全国トップクラス**

「URA活用・育成支援事業」による
リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備

(3) これからの前進、発展
・大型研究拠点型プログラムへの挑戦
・次世代を担う若手研究者を大学が育成、支援

| 年度 | 教員あたり 共同研究 受入件数順位 |
|-----|-------------------------|
| H20 | 第1位 |
| H21 | 第1位 |
| H22 | 第2位 |
| H23 | 第2位 |
| H24 | 第2位 |



2. 本学の課題とURA活動

重要課題

「一層の国際的な展開」(研究大学促進事業への応募過程で議論)

研究力の高度化を推進する

① Citation押し上げには国際共著論文の増加が必須

② そのためには国際共同研究の増加が必要

* 本学へ海外研究者・留学生を呼びこむ

グローバル・イノベーション研究院構想(GIRI構想)

* 海外へ研究者・院生が打って出る

海外アカデミアと共同研究(短長期派遣、サバティカルなど)

東西へ(工学系)から東西南北へ

南北へ(農学系)から東西南北へ

③ その結果として国際的産学連携の拡大

* 教育の高度国際化と統合して促進するのが理想的

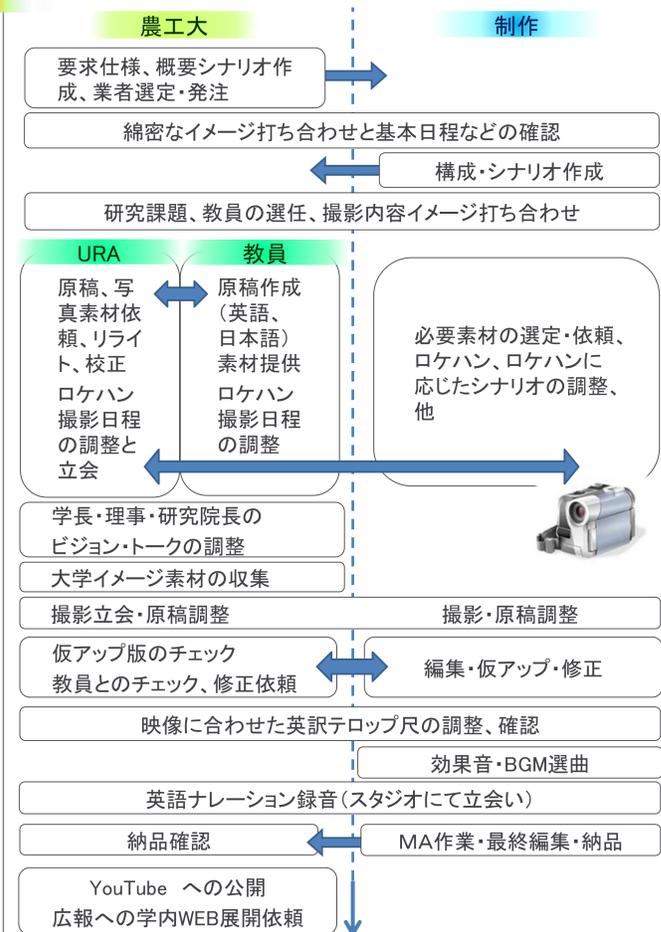
* 上記を期待するためには、「本学の研究能力と成果を国際的にアピールする」ことが前提で本学の存在が世界で認知されることがCriticalに重要である

* 今すぐできる先行的な取組みは何か?

本学の研究力を示す動画ビデオの制作(25年度)

YouTubeなどのICT活用で世界へ広報(26年度)

3. 動画制作の作業ステップ



4. 制作の考え方

動画の基本構成

① 誰に見てもらおうか?

| | |
|----------------------------------|----------|
| 日本国民一般 高校生一般 大学生一般 | △ |
| 科学愛好の高校生、学生/入学希望者 | ○ |
| 国内企業の研究者・技術者・技術企画者など | ○ |
| 世界の一般的な大衆 | △ |
| 世界の科学好き高校生・学生/留学希望者 | ○ |
| 世界の専門家・研究者(アカデミア、インダストリー) | ◎ |

② 言語の形式

英語版→テロップと英語ナレーションで構成
映像をそのまま活かした日本語ナレーション版も展開

③ 内容の深さ

専門家に研究の革新的ポイントが理解されること

④ 全体の長さ

10分を越える程度。各テーマを1分前後でまとめ、テンポのよい展開にする。また、各テーマ毎に分割した映像も公開し、個別のキーワード検索などにも対応する

⑤ 紹介機会

海外出張時に紹介する(教員、URA他)ー海外の大学で講演会やセミナーを行うときに自分の研究のプレゼン前に紹介する

⑥ 公開範囲

YouTubeや本学HPなどに公開して広報を行い、視聴者の反応を見る

研究力紹介コンテンツ設定のポイント

① 本学の研究ポリシーと研究のアピール

食糧、生命科学、エネルギーの3重点分野
その中から国際的に通用する成果を出している課題をアピール

② MEXTミッションの再定義の強調、NISTEP調査の結果をアピール

③ 本学のTenure Trackと女性未来育成機構の活動成果のアピール

④ MEXTのURA整備事業の積極的説明

URAが何を担うか

URA育成講座の開講をアピール

シナリオ構成のポイント

① スタートは研究情報から

* YouTube掲載ならば最初の1分が勝負

* 大学の場所・学風などの一般的な紹介は最後へ

② 今、尖っている研究課題を優先する

③ 今後、尖らせようとする研究課題を優先する

④ 農・工・融合のバランスを考える

⑤ 国際的展開の色合いを浮き立たせる(国際セミナーなどを盛り込み、留学生や共同研究候補にアピール)

⑥ 女性研究者育成を強化していることをアピール(女性研究者の登場と女性育成機構説明を収録)

5. 現在の反応と今後の展開

国際的アウトリーチ

① YouTube

4月下旬に公開、本学HPにバナー掲載

② 国内外提携先企業、大学、研究機関へ連絡

国内: 産学連携企業、研究所、大学など500機関以上へURLを連絡

国外: 欧米アジア姉妹大学、国際産学連携先などの研究者とURAから200人へURLを送信

③ URAネットワーク活用

英国ARMAでDVD50セット配布(26年6月、NCURA代表を含む)25年3月の英独出張先へもURL連絡



現時点での反応と今後の方針

① 反応

YouTube: 8/31現在で日本語版2553ヒット、英語版700ヒット
国際的な企業からの引合いは増加

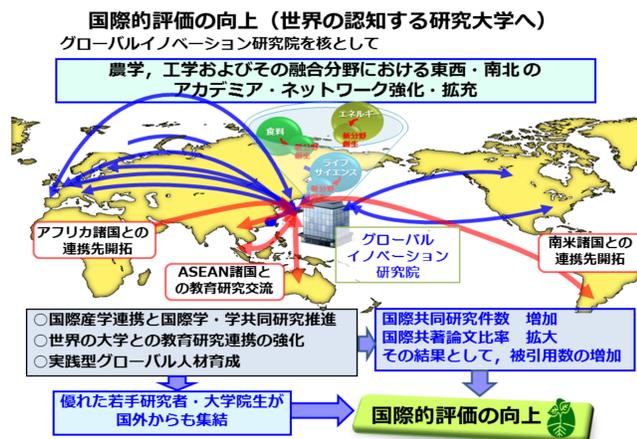
② 今後の方針

続編として海外の専門家向けに分野別研究力を紹介

* 重点分野ごとの主要課題。

* 次世代プロジェクト候補の研究課題。

グローバルイノベーション研究院(GIRI)を核とする本学の国際展開に対して国際アウトリーチ活動の一環としてURAも参画する。



“Together” Let’s open the future of science and technology!!

